

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

資料No.1

令和3年1月12日

協議会名: 三条市地域公共交通協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
越後交通株式会社	福沢線 (福沢～長沢駅跡)	三条市内の全中学校卒業生に対し、利用時間、利用方法、循環バスや自転車駐車場の案内などを記載したチラシを配布し、周知を図った。(R2.3)	A 計画どおり事業は適切に実施された。	福沢線については、目標に掲げた日平均利用者数が2人に対し、令和元年10月～令和2年9月までの実績は3.9人/日と前年度の実績(4.9人/日)から1.0人/日減少したものの、目標をわずかに上回った。高校生通学ライナーバス(東三条駅～県央工業高等学校)については、目標に掲げた日平均利用者数15人に対し、実績は25.0人/日と前年度の実績(28.0人/日)から3.0人/日減少したものの、目標を上回った。	下田地域の高校生の移動手段の確保といった観点から利用促進を図るよう、引き続きチラシの配布やホームページ等で情報発信に努める。
	高校生通学ライナーバス (東三条駅～県央工業高等学校)		A 計画どおり事業は適切に実施された。	新型コロナウイルス感染症の発生もあり、市内の県立高等学校で分散登校といった措置をとる中、それ以降の期間については昨年度と同程度の利用を得ており、下田地域の学生の通学手段を確保することができた。	
	市内循環バス南コース (市内)	通学でバスを利用する児童・生徒の声を吸い上げるため、市内学校へ現運行に対する要望の聴き取りを行った結果、当該コースの要望はなかったが、それ以外の路線で、高校の授業開始時間に合わせた運行に見直してほしい旨の要望があった。その要望を踏まえ、交通事業者と協議を行い、3路線について運行時間を変更した。(R2.4～)	A 計画どおり事業は適切に実施された。	目標に掲げた日平均利用者数が45人に対し、令和元年10月～令和2年9月までの実績は65.1人/日であり、前年度の実績(74.4人/日)から9.3人/日減少したものの、目標を上回った。※各コースの内訳(南コース 目標25人、実績41.5人)、(北コース 目標8人、実績8.9人)、(嵐北コース 目標6人、実績6.7人)、(嵐南コース 目標6人、実績8.0人)	循環バスについて、利用者の減少や低調な利用実績といった実態がある反面、学生の通学手段としてまとまった人数の利用の可能性も期待される。そこで、現在の運行について、乗降データを集めるなど現状分析を行い、今後、交通事業者と協議を進めながら、運行時間や経路などの見直しを検討していく。また、利用促進策として、路線バスと循環バスの時刻表と経路図をセットにした「三条市バスマップ」を引き続き窓口設置し、情報発信に努めていく。
	市内循環バス北コース (市内)		A 計画どおり事業は適切に実施された。	新型コロナウイルス感染症拡大防止のための外出自粛策が講じられた中で、土日も運行している南コース、東三条駅から市内外の高校へ、さらに三条高校への通学手段として利用されている北コースについては減少が見られ、嵐北コース、嵐南コースについては微減に止まっている。	
	市内循環バス嵐南コース (市内)		A 計画どおり事業は適切に実施された。	新型コロナウイルス感染症拡大防止のための外出自粛策が講じられた中で、土日も運行している南コース、東三条駅から市内外の高校へ、さらに三条高校への通学手段として利用されている北コースについては減少が見られ、嵐北コース、嵐南コースについては微減に止まっている。	
	市内循環バス嵐北コース (市内)		A 計画どおり事業は適切に実施された。	新型コロナウイルス感染症拡大防止のための外出自粛策が講じられた中で、土日も運行している南コース、東三条駅から市内外の高校へ、さらに三条高校への通学手段として利用されている北コースについては減少が見られ、嵐北コース、嵐南コースについては微減に止まっている。	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

資料No. 1

令和3年1月12日

協議会名: 三条市地域公共交通協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
株式会社エス・タクシー	三条市デマンド交通(三条市内)	デマンド交通をより多くの方から利用していただけるよう、高齢者が集まる場に足を運び、デマンド交通の制度の概要や利用方法、停留所等について話をする出張説明会を13回開催した。(R1.10~R2.9)「三条市公共交通マップ」を改訂し、全世帯へ配布した。このマップの特徴として、高齢者を意識した内容を掲載しており、例えば、医療機関とデマンド交通の停留所を1つの地図に落とし込んだ「医療マップ」や認知症について理解を深めるオレンジカフェの開催場所と最寄りのデマンド交通の停留所を地図にした「さんじょうオレンジカフェ」のコーナーページを設けた。(R2.5)	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 土日も含む全日運行について、目標に掲げた日平均利用者が180人に対し、令和元年10月~令和2年9月までの実績は171.4人/日であり、目標を下回った。(なお、前年度までは、平日の運行について評価を行っているため、前年度実績との比較はできない。)また、土日の運行について、目標に掲げた土曜日の日平均利用者数40人、日曜日の日平均利用者数15人/日に対し、同期間の実績は、土曜日が67.1人/日、日曜日が40.9人となった。前年度の実績と比較して、土曜日が19.6人、日曜日が11.8人と利用を大きく減らしたものの、目標を上回った。運転免許返納者の外出促進を図るための利用促進策として、令和2年7月から運転免許証を返納した年に限り2人乗車時の料金が割引となる「おでかけバス」の購入費用を免除する取組を開始し、25人の申込みを得ている。(令和2年12月4日現在)	公共交通マップに掲載した高齢者向けの情報等を適宜活用しながら、これまで続けてきている高齢者が集まる機会を捉えたデマンド交通出張説明会において、デマンド交通の使い方等も含めて丁寧に説明し、利用者の掘り起こしを図っている。
三条タクシー株式会社			A 計画どおり事業は適切に実施された。		
中越交通株式会社			A 計画どおり事業は適切に実施された。		
日の丸観光タクシー株式会社			A 計画どおり事業は適切に実施された。		

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和3年1月12日

協議会名:	三条市地域公共交通協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>市内の中でも山間地域の多い下田地域を始め三条市全域における交通空白地域を生み出さないためのバス等の公共交通の維持存続は極めて重要であることから、次の系統において運行確保を図っている。</p> <p>I 福沢線 下田地域の交通拠点である長沢駅跡までの枝線の存続が重要であり、特に高校生の通学手段として不可欠であることから、同路線の運行確保を図っていく。</p> <p>II 高校生通学ライナーバス 昭和59年度にJR弥彦線(下田地区)が廃止された同地区高校生の通学手段を確保することが重要であり、路線バス八木ヶ鼻温泉線を維持存続し、さらには、東三条駅で乗り換えて市内の高校(三条高等学校・県央工業高等学校)への乗り換えなしの移動手段として、貴重な交通体系であることから、引き続き、同路線の運行確保を図っていく。</p> <p>III デマンド交通 市内全域において、タクシー車両を活用して専用の停留所間をダイレクトで運行し、平日は1日平均約200人、土曜日は1日平均70人、日曜祝日は1日平均40人の利用を得て当市における公共交通手段の中核として不可欠なものとなっていることから、今後も運行確保を図っていく。</p> <p>IV 市内循環バス</p> <p>■北コース 主として井栗地区の小・中学生、高校生の通学手段として、また、東三条駅に接続することで新潟・長岡方面への通学に活用されており重要な交通手段となっているものの、本交通年度の下半期には利用者数を大きく減らしていることから、需要的に的確に対応し、効率的な運行を図っていく。</p> <p>■南コース 新幹線駅である燕三条駅、国道8号沿線のショッピングセンターなどを経由し、三条市の主要な施設への移動手段として、1日5便、土日も運行するなど同バスの中心的な運行を担い多くの市民の足として必要であることから、今後も同路線の運行確保を図っていく。</p> <p>■嵐北コース 東三条駅の北側の中心市街地を循環するコースであり、利用者の多い市役所や総合病院、個人医院を複数経由するなど特に嵐北地域の住民の生活における重要な移動手段であることから、今後も同路線の運行確保を図っていく。</p> <p>■嵐南コース 東三条駅の南側を循環するコースであり、嵐北コース同様総合病院、個人医院を複数経由するなど特に嵐南地域の住民の生活における重要な移動手段であることから、今後も同路線の運行確保を図っていく。</p>